

教科に関する調査の設問別の分析結果

平成21年度「基礎・基本」定着状況調査 四 の 4

四

4 この文章において、筆者は、ザトウクジラの声についてどのように論を展開していますか。次のア～エの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

ア まず、自分の体験をもとに説明し、次に、博士らの研究により分かった事実を説明した後、読み手に問いを投げかけている。

イ まず、自分の体験をもとに説明し、次に、博士らの研究により分かった事実を説明した後、読み手に問いを投げかけ、問いの答えを述べている。

ウ まず、自分の体験をもとに説明し、次に、読み手に問いを投げかけ、問いの答えを述べた後、博士らの研究により分かった事実を述べている。

エ まず、自分の体験をもとに説明し、次に、読み手に問いを投げかけ、博士らの研究により分かった事実を述べた後、問いの答えを述べている。

【出題の趣旨】

筆者がどのように論を展開しているかを理解することができるかどうかをみる。

【学習指導要量の内容・領域】

C読むこと（第一学年）

ウ 文章の中心の部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分けて，文章の構成や展開を正確にとらえ，内容の理解に役立てること。

《構成や展開》

	正答率
本校	55.2%
県	56.5%

解答類型	1	2	3	4	9	無解答
本校の割合(%)	55.2	8.3	16.7	14.6	1.0	4.2

この問題を解くために必要な力

- 文章の構成や展開を読み取る力。

誤答分析

誤答類型 3, 4 ウ, エ

- 事実と問いや問いの答えの違いが理解できていない。
- 特に「事実」とは、どのような事柄であるのかが正しく理解できていない。これは、「聞く」「書く」の問題においてもいえることである。
- それぞれの段落の役割や段落相互の関係を意識しながら文章を読むことができていない。

## 調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

【单元名】 説明「クジラの飲み水」

### 調査結果からみる課題

#### 【課題となる力】

- ・ 文章の展開をとらえ、段落の役割を理解することができる力。
- ・ 文章から必要な情報を読み取り、簡潔に書くことができる力。

#### 【指導上の課題】

- ・ 説明的な文章を読んで、文章の展開や構成をとらえる学習ができていない。
- ・ 文章から必要な情報を正しく読み取る力がついていないことが課題である。

### 指導改善のポイント

説明的な文章の読み取りにおいて、文章の展開や段落の役割をとらえる学習を行う。また、文章から必要な情報を読みとり、それを簡潔にまとめる学習を行う。

#### 【指導の工夫】

- 文章の展開や段落の役割をとらえる学習を行い、全体の構成をおさえさせる。
  - ・ 文章中の接続語や表現をもとにして、段落相互の関係を読みとり、論の展開を理解させる。
  - ・ 筆者の説明の工夫を読みとらせる。
- 文章を主体的、意欲的に読ませるための活動を取り入れる。

文章の展開や段落の役割をとらえる学習を行い、全体の構成や展開を理解させる。

- ・ 段落を並べ替える活動をすることで、論の展開を考えさせる。
- ・ 接続語の働きや、使われている表現をもとに、段落と段落のつながりや関係をとらえさせる。

文章を主体的、意欲的に読ませるための活動を取り入れる。

- ・ 段落を正しい順序に並べ替える活動を行うことで、進んで文章を読もうとする意欲をもたせる。
- ・ グループ学習を取り入れ、互いの意見を述べ合い、聞き合う活動をすることで、意欲的に文章を読ませる。

## 中学校第 1 学年 国語科学習指導案

### 単元名：「クジラの飲み水」

#### 単元について

##### 単元観

学習指導要領の「C読むこと」の第 1 学年の指導事項として「ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。」があげられている。

本教材は説明文であり、本格的な自然科学系の文章であるが、「海には水が不足している。」や「クジラはどうやって飲み水を得ているのか。」という問いかけが読者を引きつける。それぞれの疑問は手順を追って説き明かされる展開になっているため、文と文とのつながりを意識しやすい。また、段落初めの接続語のはたらきや文中の指示語の指し示す内容を読み取ることによって文章の構成や展開をとらえることができる。

##### 指導観

本教材を通して、接続語の働きを理解し、今後の文章理解に役立ててほしい。接続語が文章中でどのような働きをもつかを把握することで、読む上でも、自らが文章を書く上でも活用できる。また、本教材は、文章の問いと答えなどを読み分けることで、構成・内容をとらえることができる。文と文とのつながりを意識して読むよう指導をしたい。授業では言葉に注目させるようなしかけを作り、読むことに対する意欲をもたせたい。

##### 生徒観

クラスには意欲的に学習を取り組もうとする生徒が多くいるが、学習に対する意欲がかなり低い生徒も数名いる。興味のあることや、グループでの活動を行うと学習意欲の低い生徒も中心となって話し合いを行うことがあるが、意図的にグループ活動を行っていきたい。クラスは意欲的な生徒が雰囲気を作り、授業を進めている場面がよく見られる。分からないことも素直に質問できるが、他の生徒への助けになっている。

中学に入って説明文を取り上げるのは三度目であるが、長い文章を見るだけで読む気持ちを失う生徒がいる。今回は文章を並べかえる活動を行うので、単に長い文章を読み解くという感覚は薄れ、パズルのように楽しみながら文章の組み立てが理解できるのではないかと思われる。前回の学習後の評価問題の結果では、内容のまとまりをとらえるが不十分であることが分かった。接続語や指示語・キーワードによって文章が展開されていることを十分理解できていないと思われる。また、生徒は作文を書く際、接続語を的確に使えず、同じ接続語が続いたり、接続語が使われていなかったりする。今回の学習を行うことで、接続語を使って分かりやすい文章作りをしてほしい。

#### 調査結果からみる課題

##### (1) 問題の概要

文章を内容のまとまりで分ける。

##### (2) 出題の主旨

内容のまとまりが理解できているかをみる。

##### (3) 誤答の分析

40%の生徒ができていない。キーワードによって文章のまとまりを理解することができていない。内容を理解せず、分量だけで二つに分けている生徒が多い。

第 2 学年 「基礎・基本」定着状況調査より

##### (1) 問題の概要

論の展開の仕方について、適切なものを選ぶ。

(4) 出題の主旨

論の展開や構成が理解できているかをみる。

(5) 誤答の分析

展開の仕方を正しくとらえることができている生徒の割合は、55.2%であった。事実を述べているのか、読み手に問いを投げかけているのかを正しく理解できていない。説明的な文章を読む際、段落の役割や筆者の説明の仕方を考えながら読む経験が不足していると考えられる。

## 指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法の工夫

説明文の読み取りにおいて、文章の展開をとらえる学習を行う。

- ・段落の並べかえをおこなうことによって、段落相互のつながりを考えさせる。
- ・接続語のはたらきを理解させ、文と文とのつながりを意識させる。
- ・キーワードによって、内容のまとまりを理解させる。

(2) 「ことばの教育」との関連

次に示す場面で「ことばの教育」の言語技術を活用する。

説明の文章において、必要な情報を読み取る場面

- ・・・ 相手や目的に応じて必要な情報を整理して読む力

根拠を説明する場面

- ・・・ 具体的な理由・根拠を明らかにして、話す力

## 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで文章を読もうとしている。</li> <li>・文章を読み、生き物のからだのふしぎについて関心を深めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落相互のつながりをとらえることができる。</li> <li>・文章の構成や展開をとらえることができる。</li> <li>・文章の問いと答えなどを読み分けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示語や接続語の働きを理解することができる。</li> <li>・文中の語句の意味を理解することができる。</li> </ul>

## 指導と評価の計画

(全5時間)

次	学習内容(時数)	評 価				評 価 規 準	評価方法
		関	書	読	言		
一	「クジラはどのようにして飲み水を得ているか。」について説明した文章を、正しい順序に並べかえる。また、そのように考えた根拠を説明する。 (本時 2/2)					<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで文章を読もうとしている。</li> <li>・接続語や指示語に注目して、段落相互のつながりをとらえ、文章を正しい順序に直している。</li> <li>・「第一に」「第二に」のまとまりを理解し、文章の構成をとらえることができる。</li> </ul>	<p>観察</p> <p>学習シート</p>

二	文中に示されている「問い」を見つけ、その「答え」を読み取ることができる。(2)				<ul style="list-style-type: none"> <li>文中の問いを読み取っている。</li> <li>問いに対する答えを読み取っている。</li> </ul>	観察 学習シート
三	文章中に使われている接続語のはたらきや役割を理解し、文章がどのように展開されているかをとらえる。また、よく使われる接続語についても理解する。(1)				<ul style="list-style-type: none"> <li>文中の接続語がどのような働きをしているか理解できる。</li> <li>接続語の働きを理解している。</li> </ul>	観察 学習シート

## 本時の学習

### (1) 本時の目標

- 「第一に」「第二に」のまとまりをとらえることで、説明の仕方を理解することができる。
- キーワード・接続語・指示語によって段落相互のつながりをとらえ、文章の展開を理解することができる。

### (2) 本時の展開

学習内容	指導上の留意点	評価規準	評価方法
<b>1 前時の学習内容を確認する。</b>			
前時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時では問題提起の「いったいくジラはどのようにして飲み水を得ているのであろうか。」をとらえた。その答えにいたる部分、形式段落5段落分の文章が順不同になっているため、正しい順序になるよう個人で並べかえをし、根拠を考えた。</li> <li>考えた根拠を班でまとめて、模造紙に書いた。</li> </ul>		
<b>2 本時の目標を確認する。</b>			
段落と段落とのつながりを考えながら文章を読もう。			
<b>3 班の考えを整理する。</b>			
前時に模造紙へまとめた順序と根拠を班で確認し合い、発表の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>班で考えた順序を確認させる。また、その根拠は説得力のあるものかを考えさせる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">根拠は、どのような言葉や表現を手がかりにしたかをはっきり述べられるようにさせておく。</p>		観察  学習シート

4 並べかえた理由をクラスで交流しあう。			
<p>各班でどのような順序になったかを発表する。</p> <p>それぞれの班の順序を確認し,それぞれの理由を発表する。</p>	<p><b>はっきり表現する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順序をまとめた紙を班ごとに黒板に貼らせる。</li> <li>各班が並べた順序を確認させる。 共通点・相違点をはっきりさせる。</li> </ul> <p><b>じっくり考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その順序に並べた根拠を発表させる。 「Cを最初にしたのはなぜか。」 「C Bとしたのはなぜか。」 「A Dとしたのはなぜか。」 付け加えや反論があれば発表させる。</li> <li>Eの位置が違うことについて,意見を述べさせる。</li> <li>「第一に」「第二に」という言葉で二つの仮説が述べられていることを理解させる。 「Eは『第一に考えられること』『第二に考えられること』のどちらのグループか。」 「『第一に考えられること』と『第二に考えられること』の内容は何か。」 根拠となる言葉を本文中から見つけ,はっきり示すようにさせる。 他の班の生徒にも分かるように声の大きさや話す速さなどにも注意するよう指示をする。</li> </ul>		<p>観察</p> <p>学習シート</p>
5 どのような展開になっているか,確認を行う。			
<p>接続語や指示語,語句などでつながりがとらえられることを理解する。</p>	<p><b>しっかり教える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が発表した意見をもとに,説明の足りないところを補足し,確認させる。</li> <li>キーワード「海水を飲む」,「プランクトンや魚介類」によって,段落が続いていることを理解させる。</li> <li>「では」「それでは」で述べられている新たな疑問は,前の段落の内容から生まれていることを理解させる。</li> <li>「この方法」という指示語が指し示す内容をとらえさせる。</li> </ul> <p>学習したことをプリントにまとめさせる。</p>	<p>・文中に使われている接続語や表現をもとに,文章の論の展開を理解している。</p>	<p>観察</p> <p>学習シート</p>
6 次時の予告と本時の振り返り			
<p>本時の学習内容を振り返り,学習記録を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習記録の「学習内容」と「学習内容に対する成果と課題」を書かせる。</li> <li>次時は文中の「問い」とその「答え」に注目し,文章の構成をとらえる学習を行うことを伝える。</li> </ul>		<p>学習記録</p>

## 検 証

### 検証の方法

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

A それでは、食物を食べるときに一緒に飲み込まれる海水は平気なのか、という疑問をもつ人もいるだろう。( a )、食物を食べるときには、海水はほとんど胃の中に入ることはないのである。例えば、シロナガスクジラの場合、口の中にあるヒゲのような器官を使って、口を閉じたまま海水だけをヒゲのすきまから外に流し出してしまふのだ。

B まず第一に考えられるのは、クジラは海水から水を得ることができるのではないかということだ。人間などの陸にすむほ乳類の体液には、わずかな塩分が含まれているが、海水に比べるとその濃度ははるかに低い。( b )、もし海水を飲むと、逆にのどが渴いてしまう。海で遭難してのどが渴いたときに、決して海水を飲むではいけないといわれるのはこのためである。

C では、クジラは海での生活に適応したため、塩分の濃い海水を飲むことができるようになったのだろうか。( a ) 確かにクジラの体は、海という環境に適応しているような変化をしたが、海水を淡水に変えるような体のはたらきは備わっていない。( i ) このため、クジラも海水を飲んでのどを渴かすことはできないのである。( u )

問一 ( a )、( b )に入る接続語を次の中から選び、記号で答えなさい。  
ア だから イ しかし ウ たとえば エ つまり オ ところが

問二 次の一文は(あ)～(う)のどの部分に入りますか。記号で答えなさい。

【つまり、飲み水に関しては陸にすむほ乳類とほとんどかわらない。】

問三 A～Cを正しい順に並べなさい。

### 検証結果

問題	1 a	1 b	2	3
正答率	84.4%	64.4%	56.7%	56.7%

### 分析・考察

接続語を入れる問題では、逆接の問題は84.4%の正答率だが、順接になると64.4%の正答率であった。前後の文の関係がとらえられていない。前後のつながりを考えながら文章を読ませる学習活動を行っていく必要がある。

段落相互の関係をとらえ、正しい順に直せない生徒が43.3%いる。最初にBがくると答えた生徒は93.3%であったが、正答率が低いのはBとCの関係(問いと答え、人間の例からクジラの例になっている)がとらえられていない。文章のつながりを意識しながら読む活動を行っていきたい。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

A それでは、食物を食べるときに一緒に飲み込まれる海水は平気なのか、という疑問をもつ人もいるだろう。( a )、食物を食べるときには、海水はほとんど胃の中に入ることはいないのである。例えば、シロナガスクジラの場合は、口の中にあるヒゲのような器官を使って、口を閉じたまま海水だけをヒゲのすきまから外に流し出してしまうのだ。

B まず第一に考えられるのは、クジラは海水から水を得ることができないのではないかということだ。人間などの陸にすむほ乳類の体液には、わずかな塩分が含まれているが、海水に比べるとその濃度ははるかに低い。( b )、もし海水を飲むと、逆にのどが渴いてしまう。海で遭難してのどが渴いたときに、決して海水を飲むではいけないといわれるのはこのためである。

C では、クジラは海での生活に適応したため、塩分の濃い海水を飲むことができるようになったのだろうか。(あ)確かにクジラの体は、海という環境に適応しているいろいろな変化をしたが、海水を淡水に変えるような体のはたらきは備わっていない。(い)このため、クジラも海水を飲んでのどを渴きをいやすことはできないのである。(う)

問一 ( a )、( b )に入る接続語を次の中から選び、記号で答えなさい。  
ア だから イ しかし ウ たとえば エ つまり オ ところが

問二 次の一文は(あ)～(う)のどの部分に入りますか。記号で答えなさい。  
【つまり、飲み水に関しては陸にすむほ乳類とほとんどかわらない。】

問三 A～Cを正しい順に並べなさい。

《解答欄》

問一	a	b
問二		
問三		

「クジラの飲み水」学習シート

一年
組
番

問題提起・・・

予想	理由	実際	理由

そうなるかと残された道はただ一つ、クジラが自らの体内で水をつくるということになる。・・・